

2019年5月25日定例総会

平成30年度事業報告書

1. 事業活動方針

- (ア) 認定 NPO 法人の目標や活動内容を周知し、一般市民からの賛同を得るよう努め今後の寄付活動の準備を進めた。賛助会員の募集、法人会員の募集キャンペーンを実施。
- (イ) 直接の天守木造への寄付(基金積金)だけでなく、その目的を達成するために必要な調査や関連事業を実施。
- (ウ) Web や SNS を通して広く木造復元の周知を進めた。並行して他のイベントへ参加して普及活動を実施。

2. 事業内容

(ア) 小田原城天守木造復原に関する普及事業

① 小田原城調査研究プロジェクト (別添参照)

- 1. 天守木造復原に必要な研究、人材育成、資金検討等の具体的な課題への解決案を提案していく為に、専従の研究者) を招聘した。
- 2. 調査研究に関連した顧問・アドバイザーの招聘

② 講演会

- 1. 創立記念事業として文化財修復工事に造詣の深い海老崎彗次氏(錦帯橋「平成の架け替え」の棟梁)による講演会と、歴史的建造物に経験・造詣の深い識者を交えたパネルディスカッションを行なった。

(イ) 森林の保護・育成事業

① 御用材プロジェクト

- 1. 立ち枯らし試験(平成30年12月2日)

(ウ) 伝統木造技術の継承事業

① イベントに参加し情報交換や活動のPR

- 1. 「伝統建築工匠の技:木造建築物を受け継ぐための伝統技術」ユネスコ文化遺産登録に向けた「普請文化フォーラム」にブース出展

(エ) その他この法人の目的を達するために必要な事業

- ① 昨年度に引き続き継続的に天守木造復原に係わる市当局との調整を図り、天守木造復原に必要な(FS: Feasibility Study(可能性検証検討))研究を行なった。

(別添資料)

小田原城天守調査研究室 事業報告

1. 研究概要

平成 30 年 11 月に発足した本研究室は小田原城天守の復原に向けた実践的な活動を開始したが、今後 5 年を目途にして設計図書を含む基本計画書を策定することを目標に掲げている。

(ア) 主な研究内容

- ① 天守の構造的な特徴に着目した調査・研究
- ② 小田原城に関する研究論文、史資料等の収集、整理
- ③ 調査研究成果についての情報発信(学会・市民等)と復元天守の活用計画の策定

(イ) 研究方法

具体的な方針として研究・調査・実践の領域を設け、随時横断的に活動を行う。

- ① 研究
 - 既往研究の再評価 ○天守内部構成の考証 ○文献史資料の研究 ○学会発表
- ② 調査
 - 「大久保神社模型」、「東大模型」、「東博模型」の再調査
 - 「小田原城三重天守引図」の抜本的な再調査 ○類例天守の軸部構造の調査
- ③ 実践
 - 新たな模型制作プロジェクト ○現存模型の 3D 計測プロジェクト

2. 活動内容

(ア) 「東博模型」の再調査 (平成 31 年 1 月 29 日)

平成 25・26 年度に行われた模型等調査を踏まえ、さらに構造や意匠についての詳細な研究を継続していくための事前調査として、神奈川県立歴史博物館に展示されている「東博模型」を目視調査した。

(イ) 史資料の調査 (平成 31 年 2 月 27 日)

横浜開港資料館が収蔵する小田原城と城下に関する資料を調査し、主に写真資料を収集した。

(ウ) 現存模型の 3D 計測プロジェクトの事前協議 (令和元年 5 月 12 日)

現存 3 基の模型(雛形)は軸部構造の把握が困難であるため、3D 計測することによって正確に図面化することを検討予定。そのための事前協議として、東京農業大学の國井洋一教授や専門家の方々と小田原城天守閣において、模型を実見しながら協議した。